

(1)病理検査室

概要

病理検査室では、病理組織診、細胞診、病理解剖を柱として、胎児・小児疾患、産科・婦人科疾患および不妊に関わる父性医療等に関する病理診断を行っている。酵素組織化学、免疫組織化学(蛍光抗体法および酵素抗体法)、in situ hybridization 法などを駆使して、精度の高い病理診断を心がけている。また日常の病理検査の中に電子顕微鏡検索をとり入れ、糸球体腎炎、小児がん、血液疾患、皮膚疾患、気管支線毛異常などの診断に役立てている。院内の臨床病理カンファレンスを定期的に行い、他施設からの病理研修生も受け入れ、病理部門として院内の診療および研修に関わっている。また対外的には、関東・東海・東北地区の小児病理専門医の症例検討会を年に3回開催し、診断技術の向上と最新知識の普及に努めており、本年度は小児病理学に関する全国規模の研究学会も開催した。日本小児病理研究会会員への情報発信にも関わっている。外部施設や学会からの病理診断コンサルテーションにも応じており、国内外からの病理検査室の見学にも対応している。

(病理検査室長 宮内潤)

診療活動・研究活動

外部からの病理診断コンサルテーション：9件(依頼施設：大阪府立母子保健総合医療センター1件、東京女子医科大学第二病院1件、川口市立医療センター1件、鹿児島大学医学部1件、岐阜市民病院1件、総合太田病院1件、山形大学医学部1件、日本大学医学部附属光が丘病院1件、日本病理学会1件)

研究

研究面ではとくに、神経芽腫や白血病をはじめとする小児がんを対象として、病理学的、細胞生物学的ならびに分子生物学的な解析方法を用いた研究を行っている。今後は高度先進検査室と連携して、遺伝子検査を取り入れた病理診断の発展に寄与してゆく予定である。

研修医指導

高場恵美(昭和大学医学部病理学教室)：小児病理診断学の研修

大学での講義

慶應義塾大学医学部(平成15年2月2、3日)宮内潤 「小児病理学」

防衛医科大学校(平成15年3月18日)宮内潤 「小児病理学」

病理検査件数（平成14年度）

項目	H14												H15			合計
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
組織迅速顕微鏡	2	7	5	7	7	10	4	8	2	5	5	5	6	73		
組織顕微鏡検査	13	46	79	61	86	109	107	112	99	94	99	122	122	1149		
組織顕微鏡2臓器	4	12	20	9	17	15	5	8	8	9	3	7	7	124		
組織顕微鏡3臓器	0	0	3	5	3	11	7	7	6	9	12	12	12	87		
電子顕微鏡検査	0	1	1	0	2	3	4	1	3	4	3	4	5	31		
免疫抗体法検査	0	3	3	6	7	4	7	5	5	12	8	10	8	78		
病理組織検査計	19	69	111	88	122	152	134	141	123	133	130	160	160	1542		
細胞診（婦人科）	73	109	159	132	179	161	157	183	177	159	190	196	174	2049		
細胞診（その他）	11	15	22	15	19	11	12	21	20	24	15	20	17	222		
細胞診（特殊染色）	7	21	24	11	24	35	41	54	51	58	57	53	39	475		
細胞学的検査計	91	145	205	158	222	207	210	258	248	241	262	269	230	2746		
骨検査計	0	1	4	2	3	3	2	3	2	2	3	2	5	32		
ブロック数計	0	40	160	80	120	120	80	120	80	80	120	80	200	1280		
研究病理組織計	0	28	34	66	75	124	133	109	139	108	119	146	96	1177		
研究細胞診計	9	18	22	28	39	16	21	41	33	38	18	35	29	347		